INTERIM REPORT 2010

第60期 中間報告書 2009.3.1～2009.8.31

point

株式会社ポイント
〒104-0028　東京都中央区八重洲二丁目7番2号　八重洲三井ビルディング10階
Tel. 03-3243-6011 Fax.03-3243-6022
http://www.point.co.jp/

point

代表取締役社長　石井 稔晃

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
第60期の第2四半期における事業のご報告をするにあたり、
ひとことご挨拶を申し上げます。

消費の低迷など厳しい経営環境の中、計画通りの成果を残しました。

当社グループは、中期経営計画TOP12（Take Off Point 2010-2012）を策定し、前中期経営計画TOP9で確立したブランドポートフォリオをより強固にすべく、各ブランドの成長を継続することと、将来の永続的成長に向けて、ブランド価値向上やビジネスモデル強化のための投資を積極的に実施することを基本方針として、各種施策に取り組んでおります。その初年度となる当期は、世界的な景気後退による厳しい雇用情勢のもと、個人消費は引き続き冷え込んだ状況で推移し、長梅雨や冷夏などの天候不順もあり、厳しい経営環境の中でのスタートとなりましたが、着実な施策の実施により計画通りの成果を残すことができました。
スタートから半年間の活動状況といたしましては、レプシィムローリーズファームの11店舗をはじめとする56店舗の出店を実施し、当第2四半期末の店舗数は国内597店舗、海外31店舗と総計で600店舗を超え、規模の拡大を図ることができました。また、戦略的・効果的なプロモーション活動の展開や、適切な仕入・在庫のコントロールの実施によって利益の確保にも努めました。その結果、当第2四半期における連結業績は、売上高437億41百万円（前年同期比13.8%増）、経常利益67億80百万円（同11.5%増）、四半期純利益39億39百万円（同17.6%増）と、増収増益を達成することができました。

成長期ブランドをダウンタウン中心に戦略的出店を行いました。

出店面では、成長期ブランドであるジーナシス、レプシィムローリーズファーム、ヘザー、アパートバイローリーズを中心に積極的な出店を進めました。これら成長期ブランドは、これまでに実績を積み重ね知名度を着実に高めており、4ブランド合計で28店舗の新規出店を行い、その成果をあげることができました。今後も集客力の高いダウンタウン（駅ビル・ファッションビル）を中心に戦略的・効果的な出店を行っていく計画です。

旗艦店として出店した「コレクトポイント原宿店」が大きな成果をあげています。

2009年4月にオープンしたコレクトポイント原宿店は、おかげさまで開店以来多くのお客様に足をお運びいただいています。複合大型店舗としてお客様に高い利便性と商品選びの楽しさを提供するというコンセプトは、高いご評価をいただいていると感じております。また、原宿は日本でも屈指のファッション情報の発信地であり、グローバルブランドが軒を連ねる中で事業を展開することは貴重な経験になると考えております。

中国マーケットへの展開を本格化します。

2009年7月、当社75%出資子会社であるPOINT HOLDING CO., LTD（香港）の100%子会社として方針（上海）商貿有限公司を設立し、中国本土への出店の足がかりを築きました。そして10月には中国本土への出店第1号として上海にローリーズファームとジーナシスの複合店を開店し、店舗展開を本格化します。世界的な経済危機の中でも成長を続ける中国において、当社グループの提供するファッションの世界観を提供し、さらなる成長に結び付けてまいります。

社内体制の強化を図り、TOP12における各種施策を着実に実行してまいります。

当社グループは、総店舗数で600店舗を超え、組織的にも大きく成長をいたしました。しかし、当社が永年大切にし続けてきた4つのDNA、すなわちファッションカジュアル（独自のポジションを深化）、ストアブランド（店頭の実感を基点とした物語作り）、マルチブランド（市場ニーズを先読みしたコーディネート）、スピード経営（権限委譲による素早い判断と行動）の重要性に変わりはなく、これを社員一人ひとりに浸透させるためには、組織間の強固なコミュニケーションが欠かせないと考えています。そのような視点から、現在、ブランドごとに店長会議を月1回のペースで開催し、本部の考えや店舗での実感などをダイレクトに共有する試みを実践しています。徐々にではありますが、その成果が確実に表れてきていると実感しているところです。
このように、当社グループはTOP12の基本戦略に則った着実な取り組みを展開することにより、さらなる企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を頂戴いたしますようお願い申し上げます。

	当第2四半期		通期見通し
売上高	437億円（前年同期比13.8%増）	▶	970億円
経常利益	67億円（前年同期比11.5%増）	▶	162億円
四半期（当期）純利益	39億円（前年同期比17.6%増）	▶	90億円
店舗数	628店舗（前期末比52店舗増）	▶	657店舗

下期の主な取り組み

- 複合大型店「コレクトポイント」を本格展開します。
- 戦略的広告宣伝を実施します。
- 中国（上海）への出店を開始し、MD面の検証を行い、来期の出店加速に向けた体制の確立を図ります。
- 企業スローガン"enjoy?"のさらなる浸透による組織力強化を図ります。

【当冊子の表記について】
当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されたことにより、表記内容が変更されていますが、当冊子では株主様の利便性を考慮し、以下を取り決めました。
■従来の中間期に該当する期間を「第2四半期」と表記しております。
■収益関連数値については、期初からの「累計値」を用いています。
■当第2四半期と前年同期の財務情報とでは、会計基準や用語などが異なりますが、数値の比較がしやすいよう主要数値は並べて記載しております。前年同期に係る数値は参考データとしてご確認ください。

戦略的な出店・改装により、引き続き着実な成長を果たしました。

当第2四半期の売上高は、前年同期比13.8%増の437億41百万円となり、消費低迷の継続や天候不順など厳しい経営環境の中にあって、着実な成長を果たすことができました。
出店面では、当第2四半期は、レプシィムローリーズファームをはじめとする成長期ブランドを中心に新規出店を行いました。また、10店舗のインターネット店舗を出店しました。国内では50店舗の出店、4店舗の退店となり、当第2四半期末時点での国内店舗数は597店舗となりました。この結果、国内全店売上高は前年同期比112.8%となりました。また、ローリーズファーム3店舗を中心に、国内合計で12店舗の改装を実施し、既存店の鮮度向上による活性化に努めるなどの取り組みにより、国内既存店売上高は前年同期比96.2%となり、計画を上回りました。

■ 国内店舗数の推移と売上高

※店舗には、他社および自社のEコマースサイトを含んでおります。
※出店数には、業態変更による出店を含んでおります。

成長期ブランドが、売上高伸長の原動力となりました。

国内においては、ローリーズファームが116億円と高水準の売上高を維持するとともに、グローバルワークも107億円の実績を残すなど着実に成長を継続させています。
また、ジーナシスも52億円となり、第3の柱としての力強さを発揮しています。さらに、レプシィムローリーズファーム、ヘザー、アパートバイローリーズは大きく成長しており、ジーナシスを含む4つの成長期ブランドは構成比で31.4%と、前年同期に比べ4.7ポイント上昇し、その存在感を増しています。
特に、レプシィムローリーズファームは売上高38億円（前年同期比79.1%増）となり、成長を牽引しました。

■ ブランド別売上高の推移（国内）

コレクトポイントが順調に推移しました。

2009年4月に開店した当社の旗艦店であるコレクトポイント原宿店は、開店以来「お客様に高い利便性と商品選びの楽しさを提供する」というコンセプトをご支持いただき、多くのお客様にご来店いただいています。広いフロアの中をブランドごとの仕切りなく商品をディスプレイしていることから、普段ご購入いただくブランドとは異なるブランドの商品をコーディネートしてお買い上げになるお客様も数多く見られます。また、メンズとレディースのブランドが揃っていることから、カップルでご来店いただいたお客様にそれぞれお買物を楽しんでいただいています。
9月には、コレクトポイント池袋店を、ローリーズファーム、ジーナシス、アパートバイローリーズの3ブランドの組み合わせで出店し、好調にスタートしました。今後も様々なブランドを組み合わせた複合店の出店など、出店戦略を多様化させ、業容の拡大を図ってまいります。

コレクトポイント 池袋店

成長期ブランドをダウンタウン中心に出店しました。

当第2四半期は、成長期ブランドであるジーナシス、レプシィムローリーズファーム、ヘザー、アパートバイローリーズを、ダウンタウン中心に戦略的な出店を進め、4ブランド合計で28店舗を出店しました。これらのブランドには、基幹ブランドであるローリーズファームやグローバルワークと同様の規模に成長できる可能性があると考えています。これらのブランドは、着実に知名度を高めていることから、当第2四半期は、都心型施設（駅ビル・ファッションビル）を中心とした新規出店を積極的に行い、さらなる成長を図ることができました。今後も成長の牽引力となるべく、引き続き戦略的で効果的な出店を行ってまいります。

ヘザー 横浜丸井店

香港での出店を順調に展開させました。

コレクトポイント サンアーケード店

2008年3月より出店を開始した香港では、当第2四半期においてはローリーズファーム1店舗、レイジブルー1店舗、コレクトポイント3店舗を出店し、合計で13店舗となりました。
香港においては、当社ブランドの知名度も高く、当初より順調なスタートを切ることができました。特に、複数のブランドを組み合わせたコレクトポイントが順調に推移しています。店舗展開2期目に当たる当期は、香港での定着を目指した取り組みを進めてまいります。

上海に現地法人を設立し、中国での店舗展開を本格化させます。

上海出店店舗（イメージ）

中国での本格的な店舗展開を目的として、2009年7月、当社75%出資子会社であるPOINT HOLDING CO., LTD（香港）の100%子会社として方針（上海）商貿有限公司を上海市に設立しました。これは、当期よりスタートした中期経営計画TOP12で掲げた基本戦略の一つである「将来の成長に向けて新たなマーケットの開拓」に沿った動きです。10月には上海市中心部に、ローリーズファームとジーナシスの複合店で中国1号店をオープンします。
巨大なマーケットとして期待される中国で、当社グループの提案する「ファッションを通じた“enjoy?”」を理解して受け入れていただけるよう、これまで台湾・香港で培った経験を活かしながら事業展開を図ってまいります。

多彩なプロモーション活動を展開しました。

当第2四半期は、戦略的広告宣伝として、様々な媒体とのコラボレーションなどを行い、効果的なプロモーション活動につなげ、コーポレートブランドの認知度の向上およびブランド価値向上を目指しました。

point presents enjoy?

2009年5月2日、ローリーズファームをはじめ、当社の全ブランドの協賛により、恵比寿ガーデンホールにて音楽イベント「point presents enjoy?」を開催しました。当社の企業スローガン「enjoy?」をテーマに、音楽を通じて多くのお客様と楽しさや感動を共有し、コミュニケーションを深めました。

collect point × GOOD ROCKS! SPECIAL TALK SHOW Vol.1

2009年7月19日、コレクトポイント原宿店の店頭前特設スペースにて、音楽情報を中心に、映画、ファッションなど様々なカルチャー等を取り上げる音楽雑誌「GOOD ROCKS!」とのコラボレーションイベントを開催しました。トークショーのゲストとして持田香織さんが参加され、多くのお客様と楽しい時間を過ごしました。

等身大のCSR活動を展開しています。

当社では、企業市民としての責任を果たすために、身近なところから始める「等身大」のCSR（企業の社会的責任）活動を実践しています。

日本赤十字社への寄付

紛争・災害・病気などで苦しむ人を救うため、様々な支援をしている日本赤十字社の活動趣旨に賛同して毎年寄付を行っています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

中学生を対象とした職場体験会の開催

未来を担う子供たちに、働くことの大切さと楽しさを学んでいただくため、中学校の生徒さんをお招きして「職場体験会」を開催しています。2009年8月に開催した体験会には、38名の方が参加されました。

チャリティープロジェクト「音Tキャンペーン」の実施

グローバルワークでは、2009年3月から実施している「音と環境のプロジェクト（日本の音風景コレクション）」の一環として、8月1日より「音Tキャンペーン」を実施しました。この「音T」は、携帯電話を通じて小川のせせらぎやSL列車の汽笛など様々な音を聞くことができるTシャツです。当社では、環境に配慮した素材を一部使用して商品化し、売上の一部を森林保全を推進する一般社団法人モア・トゥリーズへ寄付いたしました。

オホーツク海の流氷　時計台の鐘　成蹊学園のケヤキ並木　大井川鉄道のSL

財務ハイライト（連結） Financial Highlights（Consolidated）

売上高・店舗数

経常利益・当期（四半期）純利益

総資産・純資産

	57期（2007年2月）	58期（2008年2月）	59期（2009年2月）	59期（第2四半期）（2008年8月）	60期（第2四半期）（2009年8月）
売上高（百万円）	61,650	73,941	86,705	38,425	43,741
経常利益（百万円）	12,324	13,030	15,947	6,078	6,780
当期（四半期）純利益（百万円）	6,877	7,488	8,089	3,350	3,939
総資産（百万円）	34,377	37,712	45,885	39,731	45,981
純資産（百万円）	19,547	22,349	26,565	24,612	29,310
店舗数（店）	374	469	576	517	628
1株当たり当期（四半期）純利益（円）	270.25	298.92	328.89	135.35	161.91
1株当たり純資産額（BPS）（円）	775.00	900.95	1,086.09	988.56	1,197.86
総資産当期純利益率（ROA）（%）	21.6	20.8	19.4	—	—
自己資本当期純利益率（ROE）（%）	37.8	35.8	33.2	—	—

連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（2009年8月31日現在）	前期（2009年2月28日現在）
●資産の部		
流動資産	28,505	28,424
現金及び預金	13,841	15,814
売掛金	4,124	3,367
有価証券	5,497	4,496
商品	3,935	3,675
その他	1,144	1,106
貸倒引当金	△38	△36
固定資産	17,476	17,461
有形固定資産	4,116	2,995
無形固定資産	492	448
投資その他の資産	12,867	14,016
敷金及び保証金	9,384	8,976
その他	3,663	5,226
貸倒引当金	△180	△186
資産合計	45,981	45,885
●負債の部		
流動負債	16,304	19,173
買掛金	9,635	10,363
未払法人税等	2,192	4,139
賞与引当金	1,146	830
その他	3,329	3,840
固定負債	366	146
引当金	295	114
その他	71	31
負債合計	16,670	19,319
●純資産の部		
株主資本	29,183	26,704
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,517	2,517
利益剰余金	32,683	30,203
自己株式	△8,677	△8,677
評価・換算差額等	△37	△277
新株予約権	14	66
少数株主持分	149	71
純資産合計	29,310	26,565
負債及び純資産合計	45,981	45,885

有価証券

短期国債、コマーシャルペーパーの取得により増加しました。

たな卸資産

毎期末時点の商品状況に応じて、適切な評価を行っています。

有形固定資産

店舗内装設備に係る出店投資をリースから固定資産取得に変更したことにより増加しました。

敷金及び保証金

国内店舗数が36店舗増加※したことに伴い、出店時にデベロッパーへ預け入れる敷金及び保証金が増加しています。

※Eコマース店舗を除く

純資産

毎期着実な純資産の積み上げを図っています。

四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（2009年3月1日～2009年8月31日）	前第2四半期（ご参考）（2008年3月1日～2008年8月31日）
売上高	43,741	38,425
売上原価	17,116	15,219
売上総利益	26,624	23,206
販売費及び一般管理費	19,901	17,225
営業利益	6,722	5,980
営業外収益	116	114
営業外費用	58	17
経常利益	6,780	6,078
特別利益	66	—
特別損失	149	386
税金等調整前四半期純利益	6,697	5,691
法人税、住民税及び事業税	2,129	2,474
法人税等調整額	625	△132
少数株主利益（△：損失）	2	△1
四半期純利益	3,939	3,350

売上総利益の状況

仕入・在庫等の適切なコントロールにより、売上総利益率は60.9%と、前年同期に比べて0.5ポイント向上しました。

特別損失

退店・改装に伴う賃貸借契約解約損、固定資産除却損および減損損失が発生しました。

退店

当第2四半期は、店舗戦略の見直し等により、個々に十分な検討を行った結果、4店舗の退店を行いました。

改装

当第2四半期も、店舗鮮度維持、ブランド価値向上を狙って、12店舗の改装を行いました。

ローリーズファーム　溝口丸井店
（2009年3月 リニューアル）

減損損失

一定の基準に基づき、減損損失を計上しております。当第2四半期は、3店舗が対象となり61百万円を計上しました。

販売費及び一般管理費

固定資産償却方法の変更、および中期業績賞与の導入など積極的な人材投資により増加しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（2009年3月1日～2009年8月31日）	前第2四半期（ご参考）（2008年3月1日～2008年8月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,657	2,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,191	△1,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,460	△1,251
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	5
現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	△1,973	△41
現金及び現金同等物の期首残高	20,302	13,849
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,329	13,808

投資活動によるキャッシュ・フロー

出店投資をリースから固定資産取得に変更したことにより増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いを行いました。

ホームページをリニューアルしました。

詳細な財務データはホームページにも掲載しておりますのでご利用ください。

当社のホームページでは、ブランド紹介のほか、店舗情報、プレスリリース、企業情報、株主・投資家情報など、当社に関する各種情報を公開しています。特に、株主の皆様、投資家の皆様へのきめ細かな情報提供を目指し、IRニュースや売上速報などの迅速な情報開示や、動画による説明会の模様の配信など多彩なコンテンツをそろえておりますので、是非ご活用ください。

http://www.point.co.jp/

IRメール配信の登録はこちらからできます。

IRメールにご登録いただいた方には、随時、当社の決算情報、月次売上概況、プレスリリースなどのIR・企業情報を配信しております。皆様とのコミュニケーションを深める一助としたいと考えておりますので、是非ご活用ください。

中間増配を決定しました。

当社は、株主の皆様に株主としてだけでなく顧客としても満足していただけるよう、魅力あるブランドの開発、商品の提供に必要な事業への投資を行い、一層の企業価値（株主価値）の向上を図っていくことを基本方針としています。そして、株主の皆様への還元については、配当を連結配当性向30%を基準に実施してまいります。
当期の中間配当金につきましては、期初において1株当たり40円（前期の中間配当と同額）を予想しておりましたが、業績が順調に推移していることを踏まえ、10円増配の50円に修正することといたしました。当期の期末配当予想は1株当たり60円（前期末と同額）ですので、年間配当は110円への増配予定となります。

配当金の推移

経営報告会を開催し、事業展開をご説明いたします。

毎年恒例となっております経営報告会を、このたびもより多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、東京と大阪で開催いたします。右記のとおり、どちらの会場も週末の開催となっており、株主の皆様との交流を図る貴重な機会と考えております。昨年も多数の株主様のご参加をいただき、貴重なご意見などをうかがいました。今回も多数の方のご参加をお待ちいたしております。
また、ご参加いただいた方には、粗品をご用意しております。

ポイント経営報告会

大阪会場 日時：2009年11月14日（土）11時～12時
場所：TKP大阪梅田ビジネスセンター ホール3A

東京会場 日時：2009年11月15日（日）11時～12時
場所：六本木アカデミーヒルズ40 キャラントA

※受付開始はいずれも10時30分を予定しております。
※詳細は同封しておりますご案内状をご覧ください。

当社では、株主の皆様のご意見・ご要望をお聞きし、今後の事業活動に活かしたいと考え、第59期年次報告書をお送りした全ての株主の皆様を対象に葉書形式のアンケートを実施いたしました。
ご協力いただいた皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、その結果の一部を以下のとおりご報告申し上げます。
皆様からいただきました貴重なご意見やご要望を真摯に受け止め、今後の事業活動に活かしてまいりたいと考えておりますので、変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

調査概要
調 査 対 象：全株主11,491名
調 査 方 法：第59回定時株主総会決議ご通知に同封（2009年5月27日発送）
有効回答者数：1,190名（返送率：10.3%）

1 株式購入時に最も重視した点は「成長性」

当社株式を購入された際に最も重視されたこと

46.3%の方が、「成長性」を株式購入時に最も重視した点として挙げてくださいました。当期より中期経営計画TOP12に基づき、持続的成長を目指し、様々な施策を実施しております。また、21.1%の方に重視した点として挙げていただいた株主優待制度についても、継続してまいります。

2 今後の情報開示で望まれることは「ホームページの充実」

もっと知りたい情報（複数回答）

（注）上位5つを掲載しています。
%は総有効回答者数（1,190名）を母数として算出しています。

「ホームページの充実」を、全回答者の30.3%に当たる360名の方が挙げてくださいました。2009年9月1日に当社ホームページをリニューアルいたしましたので、是非ご利用ください。（10ページをご覧ください。）今後も株主の皆様への積極的な情報開示・コミュニケーションの充実に努めてまいります。

3 当社株式の保有方針は「長期保有」、理由は「株価の上昇が期待できるから」

当社株式の保有方針

保有方針選択の理由（複数回答）

（注）上位5つを掲載しています。
%は総有効回答者数（1,190名）を母数として算出しています。

5年以上の「長期保有」を当社株式の保有方針とされている株主様は42.0%、次いで「中期保有」（27.3%）、「買い増し」（20.0%）となりました。また、保有方針選択の理由としては、「株価の上昇が期待できるから」（507名）、「業績が好調だから」（434名）、「事業内容を評価しているから」（389名）となりました。今後も株主の皆様に末永く株式を保有いただけるよう、企業価値を高めてまいります。

会社概要（2009年8月31日現在） Company Outline

会社概要

会社名	株式会社ポイント
本部	東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
代表電話	03-3243-6011
設立	1953年10月
資本金	2,660百万円
代表者	代表取締役社長　石井 稔晃
事業内容	カジュアルウェア専門店チェーン
事業所	水戸本店　　東京本部　　国内店舗数　597店舗
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行　常陽銀行
社員数	正社員1,545名
平均年齢	27.4歳

取締役・監査役

代表取締役会長	福田　三千男
代表取締役社長	石井　稔晃
取締役専務執行役員	遠藤　洋一
（管理本部・経営企画室・情報システム室担当）	
取締役常務執行役員（営業統括本部長）	櫻井　健一
取締役常務執行役員（社長室長）	時松　克治
取締役執行役員（管理本部長）	松田　毅
取締役相談役	勝山　章廣
取締役	加藤　章
常勤監査役	新名　宏志
監査役	横山　哲郎
監査役	前川　渡
監査役	髙橋　惇

※取締役のうち、加藤章は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※監査役のうち、新名宏志、横山哲郎、前川渡は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

連結子会社

株式会社ポジック

資本金	10百万円
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	当社取扱商品の物流業務
事業所	水戸物流センター、福岡物流センター、岩間物流センター

波茵特股份有限公司

資本金	10百万台湾ドル
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	台湾における衣料販売業務
事業所	台北本部　台湾店舗数 18店舗

POINT HOLDING CO., LTD

資本金	25百万香港ドル
当社の議決権比率	75%
主な事業内容	香港における衣料販売業務
事業所	香港本部　香港店舗数 13店舗

方針（上海）商貿有限公司

資本金	23百万香港ドル
出資者	POINT HOLDING CO., LTD 100% ※POINT HOLDING CO., LTDは当社75%出資会社です。
主な事業内容	上海における衣料品等の販売業務
事業所	上海本部

株主情報（2009年8月31日現在） Shareholder Information

株式の状況

発行可能株式総数…… 50,000,000株
発行済株式の総数…… 25,990,720株
株主数…… 9,525名

大株主（上位9名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社テツカンパニー	2,174	8.9
株式会社フクゾウ	1,510	6.2
株式会社武平	1,500	6.2
株式会社月岡	1,500	6.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,443	5.9
福田　三千男	1,289	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	1,137	4.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	828	3.4
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	804	3.3

※持株比率は自己株式（1,658,600株）を控除して計算しております。

所有者別株式数分布状況

※金融機関には金融商品取引業者を含みます。

株価・売買高の推移

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
株主総会	1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故、その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.point.co.jp/

お知らせ

1 株券電子化によるご注意

① 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

② 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

③ 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合せください。

④ 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様に、全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただきます。（権利確定日：2月末）

所有株式数	商品引換券贈呈額
10株以上100株未満	2,000円
100株以上1,000株未満	5,000円
1,000株以上5,000株未満	10,000円
5,000株以上	20,000円